

なんぐうおおはし
南宮大橋

中州を挟んだ二つの橋から巨大斜張橋へ

この地は、古くは南宮峡と呼ばれる景勝地で観光船が発着するほど賑わっていた。1897(明治30)年に左岸の泰阜村温田地区、右岸の阿南町御供地区が、中州(中ノ島)を境にそれぞれ木橋とつり橋の二つの橋を架けた(私設有料橋)。1951(昭和26)に南宮2号橋が架け替えられたが、同じ年、下流に平岡ダムが完成し、堆砂により河床が上昇した。1983(昭和58)年の台風災害では、冠水し阿南高校の生徒が帰宅困難となるなどの被害が出た。1995(平成7)年6月に水面から十分な高さを持つ斜張橋「南宮大橋」に架け替えられた。信濃の橋百選に選定されている。



川と町村境を挟む要地 巨大斜張橋が一つに結ぶ



かつては木橋とつり橋を結んだ中ノ島が、今は南宮大橋を支える



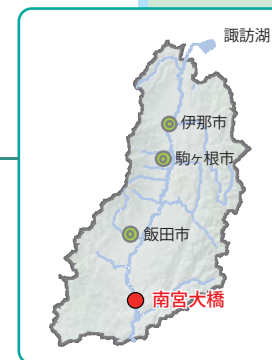
information

□ アクセス

飯田線温田駅から
400m 徒歩→5分

□ 所在地

泰阜村温田～
阿南町北条



中ノ島

昔は「南宮島」といい、南宮神社も祀られていた。付近の植物群落とは異なる松柏が茂り、島全体が天然記念物にも指定されていた。平岡ダム建設に伴い、洪水時には浸水するようになり、ダムと治水と天然記念物への配慮が課題になる一例となった。

斜張橋

斜張橋とは塔から斜めに張ったケーブルを橋桁に直接つなぎ支える構造の橋。中ノ島に立てた高さ75mの主塔から、両翼を上げたように張った計48本のワイヤーが橋を支える。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)